

今年度の指導の重点	津山っ子の学びを高める “3つの提案” 6つの取組
よく遊び よく学ぶ 子どもの育成 ○自律して 仲良く 汗をかく ○自分で考え 協力し 深く学ぶ * 全校でチャイム着席 あいさつ くつろえなどに取り組む(普通をみがく) * 新指導要領移行期として、教科の「見方・考え方」を踏まえた指導、単元・題材のまとまりを意識した指導、基礎・基本を確実に習得させる指導に取り組む。 * たてわり班による活動を通して高学年をリーダーとして育てることで自己有用感を持たせる。	<input type="checkbox"/> 学習や生活のルールを全教職員で共有して児童生徒や保護者へ提示している 当初 [A] 年度末 [ ] <input type="checkbox"/> 授業の中で学習のめあてを持たせめあてについて振り返る場を設定している 当初 [B] 年度末 [ ] <input type="checkbox"/> 言語活動充実のために話し合う活動を大切にしている 当初 [C] 年度末 [ ] <input type="checkbox"/> 学習のねらいに応じてICT活用等による多様な学習を工夫している 当初 [D] 年度末 [ ] <input type="checkbox"/> 授業で学んだことが振り返ることができるような家庭学習の仕方を提示している 当初 [B] 年度末 [ ] <input type="checkbox"/> 家庭地域と共に育てるためにHPや通信等で発信している 当初 [E] 年度末 [ ]

※達成度 「S:目標を大きく上回った(100%超)」 「A:目標を十分達成できた(85%以上100%未満)」  
 「B:目標を概ね達成できた(70%以上85%未満)」 「C:目標をある程度達成できた(50%以上70%未満)」  
 「D:目標をあまり達成できなかった(30%以上50%未満)」 「E:目標を達成できなかった(30%未満)」

調査結果について(調査結果において明らかになったこと)	
【学力状況調査の結果】 全国 ●国語AB、算数ABどれも県平均を下回った。(基礎、活用共に課題がある) ○ことわざの意味や使い方を答える問題の正答率が県平均を上回る ○設問の数量関係を理解し、数直線上に表す問題の正答率が全国平均を上回る  県 ○4、5年ともに標準スコアが前年度を上回る ○3年国語は全国平均を上回る ○3年算数、4年算数は全国平均と同程度 ●4年生国語、5年生算数・国語は全国平均を下回る  ●国語、算数共に記述式の問題(2段落に分けて書く、原稿用紙の使い方、理由・方法を説明すること)に課題がある ○3年生は漢字の読み書きは全国平均を上回る。●「書くこと」「読むこと」「算数活用力」に課題がある ○4年生は漢字の読み書きは全国平均を上回る。●「書くこと」「数量や図形についての知識・理解」に課題がある ○5年生は漢字の書きは全国平均を上回る。●「書くこと」「基礎的な計算」「図形」に課題がある	【学習状況調査の結果】 全国 ○朝食を毎日食べている児童の割合が県平均を上回る ●家庭学習の時間(1時間以上)は、県平均を下回る ○読書時間は、1時間以上の割合が県平均と同程度 ●読書時間は、30分～1時間の割合が県平均を上回る ○理科の学習が好きな児童が県平均よりかなり多い  県 ○家の人は、あなたのよいところを認めてくれていると答えた児童の割合が県平均を上回る ○学校の授業などで、自分の考えを他の人に説明したり、文章に書いたりすることが難しいと答えた児童の割合が県平均を下回る ○家の人に、あいさつをする割合が県平均を上回る ●家庭学習の時間(1時間以上)は、県平均を下回る ●スマホ等使用時間が、県平均を上回る ●テレビ等メディア視聴時間は、4時間以上が県平均より多い ○テレビ等メディア視聴時間は、1時間以下が県平均を上回る

成果	課題
○経年比較をするとどの学年も学力が上がっている ○「書くこと」についても前年度に比べると記述力の向上が見られる(校内研究児童アンケート結果より)	●「書くこと」については、向の上容は見られるが、継続した課題ととらえる(国語以外の教科への活用も含めて) ●既習の学習内容の定着、特に前年度までの学習事項が十分に習得できていない児童がいる ●家庭学習時間が1時間以下の児童の割合が、全国平均を上回る

何を(改善すべきこと)	いつまでに(成果検証の期限)	どこまで(対象と達成目標の設定)	どのように(方策)	達成状況(12月末現在)	達成度	達成状況(年度末)	達成度	次年度への改善点・重点課題
条件つき短作文の記述力をつける	12月・3月	全児童を対象に 12月・3月学期末補充学習で県学子類似問題を実施 達成目標 8割	校内研究テーマに沿った取組 ・「ことばの力」の系統を意識した単元づくり ・評価基準の明確化・提示 ・条件付き短作文を書く機会を増やす(問題データベースの活用) ・段落分け、原稿用紙の使い方の指導を徹底	・週末課題を実施 1・2年…作文(日記) 3～6年…短作文プリント(原書問題データベース) *短作文プリントについては透明けに答え合わせ、解説を行う	A			
既習の学習内容の定着	12月・3月	全児童を対象に 12月・3月学期末補充学習で秋チェック実施時の課題を再テスト	・秋チェック結果を分析し、課題をもとに、授業改善や補充学習、宿題の見直しを図る。 12月・3月学期末補充学習で再テスト	・補充学習(1学期末)全学年で実施 ・秋チェックの結果を分析後、授業、宿題等で重点を補充	B			
家庭学習の定着と充実	①定着 9月中 ②充実(自主学習の取組) 12月	①全児童の9割が宿題を提出する ②3年生以上の児童全員が自主学習に取り組む	①全学級で提出率を調査 ②自主学習(ぐんぐんノート)の取組を9月に開始 よいものを掲示、表彰	①提出率を調査(9割提出クラス 75%) ②自主学習取組開始 本題に掲示コーナーを設け、各	B			

※達成度 「S:目標を大きく上回った(100%超)」 「A:目標を十分達成できた(85%以上100%未満)」 「B:目標を概ね達成できた(70%以上85%未満)」  
 「C:目標をある程度達成できた(50%以上70%未満)」 「D:目標をあまり達成できなかった(30%以上50%未満)」 「E:目標を達成できなかった(30%未満)」

小中連携の取組	保護者・地域へ理解・協力を求めること
統一した生活指導のキャッチフレーズ「時を守り、場を清め、礼をつくす」 H30年度「書くこと」をテーマに研修	年度当初に配布している「家庭学習の手引き」を利用した家庭学習時間等の啓発 スマホ等のメディアに関する家庭でのルール作り(10月人権参観日後の懇談で6年生保護者向けに講座開催予定)